2025 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・総合科学学科・１年

（１）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

START プログラムへの参加を通じて、多くの発見と貴重な学びの経験を得ました。留学前、私は銃社会や薬物の入手しやすさについての話を耳にすることが多く、アメリカに対してどちらかといえばネガティブなイメージを持っていました。しかし、実際に現地で生活してみると、人々のフレンドリーさと親切さに感銘を受け、私の認識は完全に覆されました。

さまざまな活動の中で、ポリテクニックキャンパスで行われた藻類に関する研究が最も強い印象に残りました。発電や空気浄化のために藻類を利用するというアイデアに魅力を感じましたし、アリゾナ州の乾燥した気候と豊富な日照量をどのように研究に活かしているのかが特に興味深かったです。このように地域の特性を活かして持続可能な研究を推進するアプローチは、将来自分の研究に応用していきたい貴重な知見となりました。

高校生の頃から環境問題に深い関心を持っており、環境に優しい素材の開発を通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。このプログラムを通じて、研究において多角的な視点を持つことの重要性や、科学的成果がどのように社会に還元できるかを考えることの大切さを学びました。今後はこの経験を糧に、自分の研究テーマをより具体的に定め、意味のある社会的価値の高い成果を生み出せる研究者になるよう努力していきます。

（２）プログラム内容についての全体的な感想

このプログラムを通じて、講義、研究施設の見学、文化活動、観光など、多方面にわたる学びを深めることができました。

ハード博物館では、先住民族の美術が単なる静的な展示物としてではなく、生きている文化表現の形態として紹介されており、一般的な美術館とは異なる視点を得ることができました。特に、風景画の上に伝統的な模様を描くことが、その風景の中に先住民族が存在し続けることを象徴しているという学芸員の説明には強く印象に残りました。「先住民族の芸術と歴史」の授業では、日本では見られない、先住民族の文化を保護・促進するための取り組みであるミス・インディジェナス・アリゾナ・ステートやミス・インディジェナス・ASU について学び、大変興味深く感じました。さらに、先住民族が使用するカゴのそれぞれの模様に意味が込められていることを知り、文化表現の象徴的な形態についての理解が深まりました。

ポリテクニックキャンパスでは、自動運転車や藻類に関する研究を間近で見学し、最先端技術の新しい応用について学ぶことができました。研究と環境条件の関係に着目

することで、科学と地域の特性の結びつきを実感するようになりました。週末にはグランドキャニオンやセドナを訪れ、その圧倒的なスケールを肌で体感することができましたが、ツアー形式だったためか各場所での滞在時間が少し短く感じられました。ドリームスケープ（Dreamscape）では、VR を活用した学習活動に参加し、科学教育とエンターテインメントを組み合わせた革新的な教育アプローチに触れました。「科学・技術・社会」の授業では、アンチエイジングをテーマに議論を行い、科学技術の発展に伴う倫理的判断の重要性を振り返る機会となりました。 最終日のプレゼンテーションに向けて、私のグループは「ホームシック（Away From Home)」や先住民族の文化の伝承といったテーマについて研究し、他のグループは日米の文化やスポーツの比較などを行い、幅広い視点を得ることができました。平日は午後 5 時頃まで講義やサイトビジネストリップ（視察）の予定が組まれており、その後はハイキングやバスケットボールの観戦といったアクティビティを通じて現地の日常生活を体験することができ、非常に充実した日々となりました。一方で、現地の学生との直接的な交流の機会や、実際の大学の授業に参加できる機会がもう少し増えれば、プログラムはさらに良くなるのではないかと感じました。
（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス
まず、留学の目的を見失わないことが重要です。新しい環境では刺激的な経験が多く、観光や交友関係に夢中になりがちです。しかし、このプログラムを通じて何を学び、何を成し遂げたいのかを常に自分に言い聞かせることで、より深く意味のある学びを得ることができます。 また、出発前に渡航先の文化や習慣について調べておくことも不可欠です。例えば、「How are you?」と言われた際に自然にどう返答するかといった基本的なことさえも、事前に準備しておけば日常のコミュニケーションが格段にスムーズになります。現地のマナー、人との接し方、典型的なライフスタイルを理解することで、文化の違いをより前向きに受け入れられるようになります。 さらに、特に長期滞在においては、食事の準備が非常に重要です。毎回の外食は、費用、ポーション（量)、味の面で大変だと感じました。特にアメリカにはメキシコ料理が多く、辛い料理が苦手な人には難しいかもしれません。パックご飯やインスタント味噌汁などの日本食を持参するとホッとする安心感が得られるため、強くお勧めします。

所属学部・学科・学年	法学部・法学科・1 年
（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか	
一言でアメリカでのスタートプログラムを通じて学んだことを表すならば、それは「受容（アクセプタンス)」の大切さです。私は、日本とは異なる文化を体験し、視野	

を広げるという明確な目標を持ってこのプログラムに参加しました。現地滞在中、日本とは比べ物にならないほどのスケールを持つ教育インフラや大学の大規模な研究施設に驚かされました。規模の違いには本当に目を見張るものがありました。

しかし、最も強い印象に残ったのは「人」でした。アメリカでは、多様な個性が共存する中で、他者を受け入れる素晴らしい文化があります。例えば、赤信号で止まっているときに誰かが他人の車を「Cool car!」と褒めたり、キャンパスで DJ をしている学生に対して誰かが「Nice DJ!」と大声で褒め称えたりするとき、彼らはいつも親しみやすく前向きな態度で応じていました。誰も不快そうな顔をしていませんでした。

他者を受け入れるこの姿勢こそが、現代のグローバル社会にまさに必要だと感じました。将来、私はこの「受容」の精神を心に持ち続けたいと思います。失敗を恐れず、新しいことに挑戦し続けたいです。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

アメリカでの講義は、私にとって非常に新鮮な経験でした。VR 技術を活用したり、日本よりも実践的な内容が取り入れられたりしていました。先生たちはジョークや「いたずら」さえ交えて授業をより面白く、楽しいものにしてくれました。また、ホテルや大学の施設は非常に清潔だったため、旅行中にお腹を壊したり体調を崩したりすることはありませんでした。食事はどこも美味しかったのですが、ポーション（量）が非常に大きく、油っぽい料理もあるため注意が必要です。

安全性については、街は非常に安全だと感じました。池袋駅周辺よりもホームレスが少ないと感じたほどです。しかし、それでも一部のホームレスはいるため、危険な地区には近づかないことが重要です。特筆すべき点として、アリゾナ州は非常に乾燥しています。あまりにも乾燥しているため、喉の痛みのせいで夜中に目が覚めることが何度かありました。日本から簡易加湿器を持っていくことをお勧めします。全体として、街路やインフラはよく整備されており、滞在中不便に感じることはほとんどありませんでした。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

プログラム中の大きなトラブルはありませんでしたが、私の経験に基づいたいくつかのアドバイスです：

- **目薬と携帯用加湿器を持参する**：アリゾナは極めて乾燥しています。喉や目が非常に乾燥することが多いため、日本からこれらの品物を持参するべきです。
- **クレジットカードを確認する**：私は三井住友カードと楽天カードを持参しました。三井住友カードはセキュリティ上の問題で使用できないことがあったため、もし持っていない場合は楽天カードを持っていくとよいでしょう。
- **支出を管理する**：限度額に達してしまい、一時的にカードが使えなくなりました。出発前に限度額を確認し、支出を管理することが大切です。

- **ボディシートを持参する**：2 月であっても、アリゾナは暑く、湿気が少ないです。
- **プログラム開始前に友達を作る**：日本にいるうちに他の参加学生と知り合っておくのは良いアイデアです。出発前に一緒にランチやディナーパーティーをすることをお勧めします。
- **アメリカ生活を楽しむ**：週末に街へ出かけたり、様々な場所を訪れたりするだけでなく、ホストファミリーや現地の人々とのコミュニケーションを楽しんでください。